

コレクティブハウジングとコウハウジングにおける共用空間の利用実態に関する研究

正会員 ○山本 梨加*
同 加藤 彰一**
同 毛利 志保***

コレクティブハウジング コウハウジング 共用空間
協同居住 協働活動

Abstract

This study aims to learn to develop Collective housing (CH) system by understanding about the use of the common space in CH and Cohousing, and to clarify the role of the common space in the CH. There are many points that should be learnt from CH like the common space as a communication space for residents and Cohousing like the common space as a Place of child care and housework.

1. 研究の背景と目的

近年、少子高齢化が進行するに伴い家族の小規模化・多様化、地域コミュニティの弱体化など、家族の在り方や地域との関わりが変化しつつある。居住者の参加と協働によって行われるコレクティブハウジングでの住まい方は、北欧諸国をはじめとし、世界各国で数多く行われている。それらは、それぞれの国の住宅問題の解決やコミュニティの形成と育成に重要な役割を果たしている。

本研究では、コレクティブハウジングとコウハウジングにおける共用空間の利用実態から、共用空間の役割を明らかにし、各事例から今後のコレクティブハウスの計画・運営において学び得る点について考察する。

2. 研究の方法

研究は以下の手順で行った。

(1)コレクティブハウジングから1事例、コウハウジングから2事例を抽出し、各事例における共用空間の利用状況や利用方法について代表者にヒアリング調査及びアンケート調査を行った。(2)調査より得られた結果から、共用空間の利用実態を把握した。(3)コレクティブハウジングにおける共用空間の役割を明らかにし、各事例から今後のコレクティブハウスの計画・運営において学び得る点について考察した。

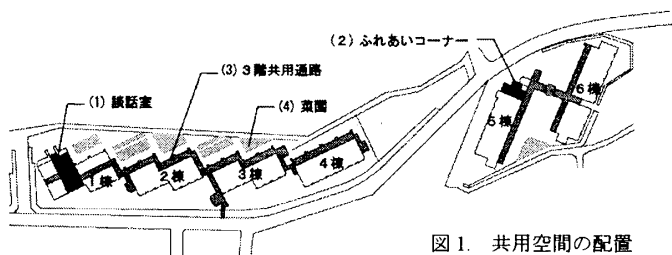


図1. 共用空間の配置

3. 調査概要

(1) 市営I住宅の概要

表1にI住宅の概要を示す。I住宅は、老朽化に伴い、高齢社会に対応しうるコレクティブハウジングとして建て替えられた。

表1. I住宅の概要

外観写真	
敷地面積	15602.73m ²
建築面積/延床面積	1447.27m ² /2807.95m ²
住戸タイプ	1DK(24戸)、2DK(17戸)、3DK(44戸)、2LDK(1戸)(障害者向け)
竣工年月日	平成14年6月
入居年月日	第一期1~3棟 平成14年8月、 第二期4~6棟 平成16年5月

表2. アンケート調査の概要

調査年月	平成21年12月	平均年齢	60.9歳
回収率	64.1% (50/78)	男女比	男:64%、女:36%

(2) J住宅とS住宅の概要

表3にJ住宅とS住宅の概要を示す。

表3. J住宅とS住宅の概要

名称	J住宅	S住宅
建築年	2001年	2000年
所在地	ワシントン州シアトル市	ワシントン州ボセル市
敷地面積	544.5m ²	4083.75m ²
所有形態	区分所有	区分所有
戸数	27戸	15戸
共用空間	コモンハウス (42.35m ²): キッチン、食堂、リビング、キッズルーム、倉庫、ランドリー、工作室、食品庫、テラス、ロビー、事務所	コモンハウス (30.25m ²): キッチン、食堂、リビング、キッズルーム、倉庫、ランドリー、工作室、食品庫、ゲストルーム、温室、菜園
居住者数	約60人	36人
立地特性	都市中心部	郊外



写真1. J住宅の外観

写真2. S住宅の外観

4. 調査結果

4-1. 共用空間の特性

I、J及びS住宅には、豊かな共用空間が充実している。(図1)。以下に主なものを示す。

(1) I住宅

1棟談話室(写真1)は1棟の共同玄関も兼ね、アクセスは談話室を通るよう設計されている。5棟にもふれあいコーナーが設置され、二つの共用室が配置されている。他には、花壇やベンチを設置した3階共用通路(写真2)や居住者が自由に利用できる菜園がある。

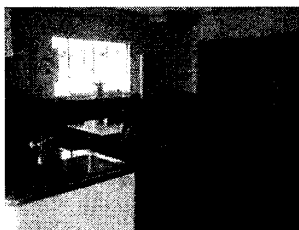


写真3. J住宅の外観



写真4. S住宅の外観

(2) J住宅

キッチンと食堂は隣接し、カウンターから相互の様子が伺えるように配置されており、食品庫も併設されている。また、キッズルーム(写真5)やランドリーも設けられ、居住者が自由に使用できる。



写真5. J住宅のキッズルーム



写真6. S住宅の食堂

(3) S住宅

キッチンやリビングと隣接している食堂(写真6)は、プロジェクターやホワイトボードが設置され、食事以外に会議にも使用する。また、キッズルームやランドリーの他、ゲストルームやコモンミールに使用する野菜を育てる菜園、温室も設けられている。

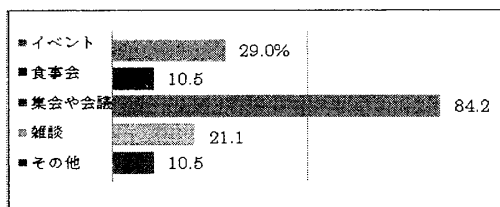


図2. I住宅の談話室の利用方法

4-2. 共用空間の利用実態

(1) I住宅

アンケート結果により考察する。談話室の利用方法を見ると(図2)、「集会や会議」(84.2%)が最も多く、次に「イベント」(29%)となっており、食事や雑談など日常的利用は少ないことが分かる。

(2) J住宅・S住宅

J住宅及びS住宅における共用空間の利用は、コモンミールなどの日常的利用から会議などの定期的利用も見られた。(表4)

表4. 協同活動の実施状況

	名称	J住宅	S住宅
① コモンミール	頻度	5回/週	5回/週
	料金	大人:4ドル 子供:1ドル	大人:5ドル 子供:3ドル
	参加人数	約30~40人	約30人
	開催日時	月~木:18:30~、 土:9:00~	月~木:18:15~、 土:8:30~
② 会議	運営方法	4週間のサイクルで調理と片づけをボランティアで決める。買い物班がメニューを決め、参加者のサイン、集金後買い出し。	調理2人、片づけ2人、買い出し班をボランティアで決める。3週間前にスケジュール(係とメニュー)を立て、参加者は表にサイン。
	頻度	1回/月	3回/月
	内容	予算の使い方 会議後、記念日や誕生会を行う	管理・運営について(ビジネスミーティング) 歌やダンスを楽しむ(ソーシャルミーティング)

5. まとめ

J住宅とS住宅は、食事の他にキッズルームやランドリーで家事や育児を共有し、共用空間を個人の住居の延長として有効に使用していた。一方、I住宅では、共用空間を生活空間の一部と捉え、居住者間の交流の場として使用していた。

以上のことより、コレクティブハウジングの役割は、居住者の生活や時間を共有し、交流できる場であり、生活・居住環境の向上、コミュニティの発達に向けて、3事例から学ぶべき点があると言える。

参考文献

1. コウハウジング研究会、チャールズ・デュレ、キャサリン・マッカマン：コウハウジング、風土社 2000年
2. 藤根六平 高齢者住宅としてのコレクティブハウジングのあり方～豊橋市営住宅の高齢者向け協同居住型、豊橋科学技術大学卒業論文 2007年

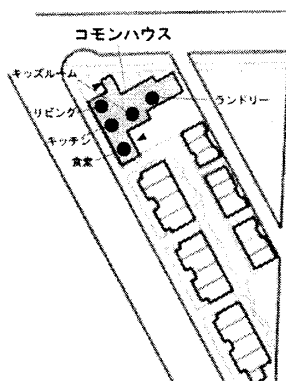


図3. J住宅の配置図

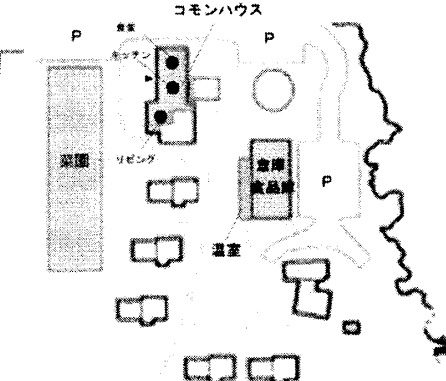


図4. S住宅の配置図

* 三重大学大学院工学研究科 博士前期課程
 ** 三重大学大学院工学研究科 教授・工博
 *** 三重大学大学院工学研究科 助教・工博

* Graduate Student, Graduate School of Eng., Mie Univ.
 ** Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng.
 *** Assistant Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng.